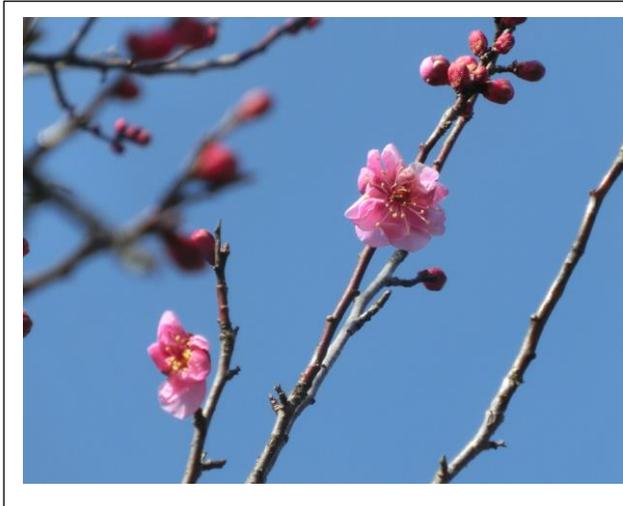


～みなさん「想い」を聞いてください～



2月は逃げる、3月は去るという言葉のとおり、あっという間に2月なり、春の到来が待ち遠しい季節になりつつあります。みなさん元気で過ごしましょう。



◆「ほけますから、よろしくお願いします」に共感（八島指導員）

2018年公開されたドキュメンタリー映画「ほけますから、よろしくお願いします。」認知症の母と老老介護する父の暮らしを映像作家・信友直子さんが撮った映画です。2020年12月末に映画のその後について、テレビ新広島の番組で、【おかえりお母さん～その後「ほけますから、よろしくお願いします。」】～が放送されました。この番組を自身の両親と重ねて見ていました。その時感じたこと、思ったことを紹介します。

小さな便り1月号で記載しました、自身の体調不良の要因の一つに母親の入院とそれに伴う父親の世話で、昨年12月に体調を崩したことについて触れました。一週間ぐらいのことでありましたが、高齢の両親を看ることの大変さがこの年になって、少し実感した時でした。母親が12月の初めに腰痛で入院し、それまで全て、母親が家事一切を担っていました。当面困ったのが、父親の食事の準備でした。嫁が作ったものを運ぶだけではありませんでしたが、三度の食事の支度は、自分にはけっこう大変でした。「ごはん」を最初、運んでいましたが、途中から父親がご飯を準備出来るように、炊くためのセットの仕方を教えて、おかずだけを運ぶようになりました。ご飯の炊き方を教えて、これで大丈夫だと思って、おかずだけを運んで行った時、ご飯が炊けてなかったので、父親に訳を聞くと、「ようわからなかったんで、炊かんかったんじゃ」と話をするので、少し強い口調で「なんで出来なかったん。今朝おしえたじゃろ」と、責めるように言っていました。その時、父親の表情が少し困ったような、すまなさそうな顔をしていました。その時は、それで終わったのですが、振り返って考える

と、母親の入院、父親の世話が負担となって、「このぐらいやってくれよ・・・」と心の中で父親を責めていました。父親の表情が、変な言い方ですが、子どもが困った時の表情に似ていて、父親に対して「申し訳なかった」「あがに言うじゃなかった」と反省と共に、やりきれない気持ちになりました。

母親は、一週間ぐらいで幸いに退院しました。たった数日間の父親の世話でしたが、「人の面倒を見る」大変さが少し実感できました。肉体的・精神的な大変さ、それぞれあることを実感しました。世間でいう介護の域までは程遠い体験でしたが、自身の生活を守りつつ、親の面倒を見ることは、まさに「言うは易く行うは難し」です。

追伸、父親への自身の態度、発言で、ある人の言葉が思い出されました。「高齢者の方への敬意を忘れてはいけない」「ぬくもりと寛容な社会が大切」であるということと言われました。自身の心に止めて、これから両親と向き合う現実が、すぐ目の前に来ていることを覚悟しなければと感じています。

突然ですが

◆「はいせつ」のお困りごとはありませんか？ (田村相談員)



たかみや人権福祉センターでは、高齢化が進む町の課題を思い、他人に相談しにくい排泄ケアのお悩みなども気軽にご相談いただける環境づくりを進めています。小さな心配事でも大丈夫です。どうぞお気軽にセンターにお立ち寄りください。

この本を読んでみられませんか！

介護の知識も体験もない私は、排泄ケアって何なのか勉強するために、京都の「(株)はいせつ総合研究所 むつき庵」に何度も勉強に行きました。排泄ケアに関わる道具、技術、メカニズム、その他色々なことを学ばせていただきましたが、中でも、代表の浜田きよ子先生の考え方の原点にある、「介護される人」ではなく、かけがえのない「私」が暮らしの中の主人公であることを実感できること、そのことが「自分らしく生きる」ということにつながる、この様なお話が、とても心に残り、このことをとても大切にしたいと思うようになりました。

ご紹介するのは、そんな浜田先生が書かれた本で、4, 5年前に出会ったものですが、先日読み返してみると、この4, 5年の間に随分変化があった高宮町のことと照らし合わせ、高齢社会を生きる、向き合うという事に、以前に読んだ時とはまた違う、新たに感じる事、気づける事がありました。

センターで貸し出しをすることが出来ますので、皆さんも是非読んでいただければと思います、ご紹介させていただきます。



発行:たかみや人権福祉センター 〒739-1802 安芸高田市高宮町佐々部 983-13
電話・お太助フォン 57-1330